

目的 着装中に生じる着じわは着心地を悪化させるものである。衣服素材の防しわに関する処理・加工は行われているが、着心地の悪化、コストの増大、適用素材の限定など問題がある。従って、素材にかかわらず着じわの少ない衣服は待望されるものと思われる。しかし、着じわに関しては、しわつけ時にも評価時にも個人差を含みやすく、研究が遅れているのが現状である。特に着じわの評価法が整っていないことは大きな障害であることから、着じわの官能量と相関の高い物理量について検討した。

方法 実験服はY式原型を用いて作図し、綿ブロードで作成した。形式は半袖、衿なし前開きで、両袖は肘線上部10cmのところ袖下部を接合し長袖になるようにした。着じわの作成は、肘をついて本を読む姿勢で行った。着用後ただちに袖部位を写真撮影し、着じわをアクリル樹脂塗料で固定した。次に融針型しわ測定器を用いてトレースしたしわ曲線から、物理量として「しわ曲線の長さ」「山の数」「山の高さ」「山の幅」の数値を得た。また、しわ曲線の長さをもとに写真を選定し官能評価を行った。判定は3段階の絶対評価で行い、各々の相関係数を算出した。

結果 着じわの官能量と相関の高い物理量は「しわ曲線の長さ」と「山の数」であった。なお「しわ曲線の長さ」については、判定別に度数分布を表した結果判別区分点は存在するように思われた。